

R-18G
presented by **SHIS**



THE BYSS
ザアロス EHS R-18

天龍

ちや

あ、ありが—





ウチの工廠は
少々特殊でね…

ウフフ…良いねえ…
ハネつ返りは即ち鮮度！

殺ス…

ようこそ
我が工廠へ

歓迎するよ
ヲ級ちゃん

他の提督達からの委託もあって
艦むす達の夜戦能力開発に
特化しているんだが：

最近では鹹獲した深海棲艦を
使つてみたい提督も多くてね

死ぬまで頑張ってね♥

今回の新薬開発は君しか
被験体がないからね：極力
轟沈しないように気をつけるよ

だから――

今……何ラツ……!?

3分後

おつ もう効果出てる?
ヲ級ちゃんの乳首すごく
スケベな形に勃起してるよ

下もトロトロだ…
こりや開発成功だな

んじや持続時間でも測るか…
しばらく放置しこ

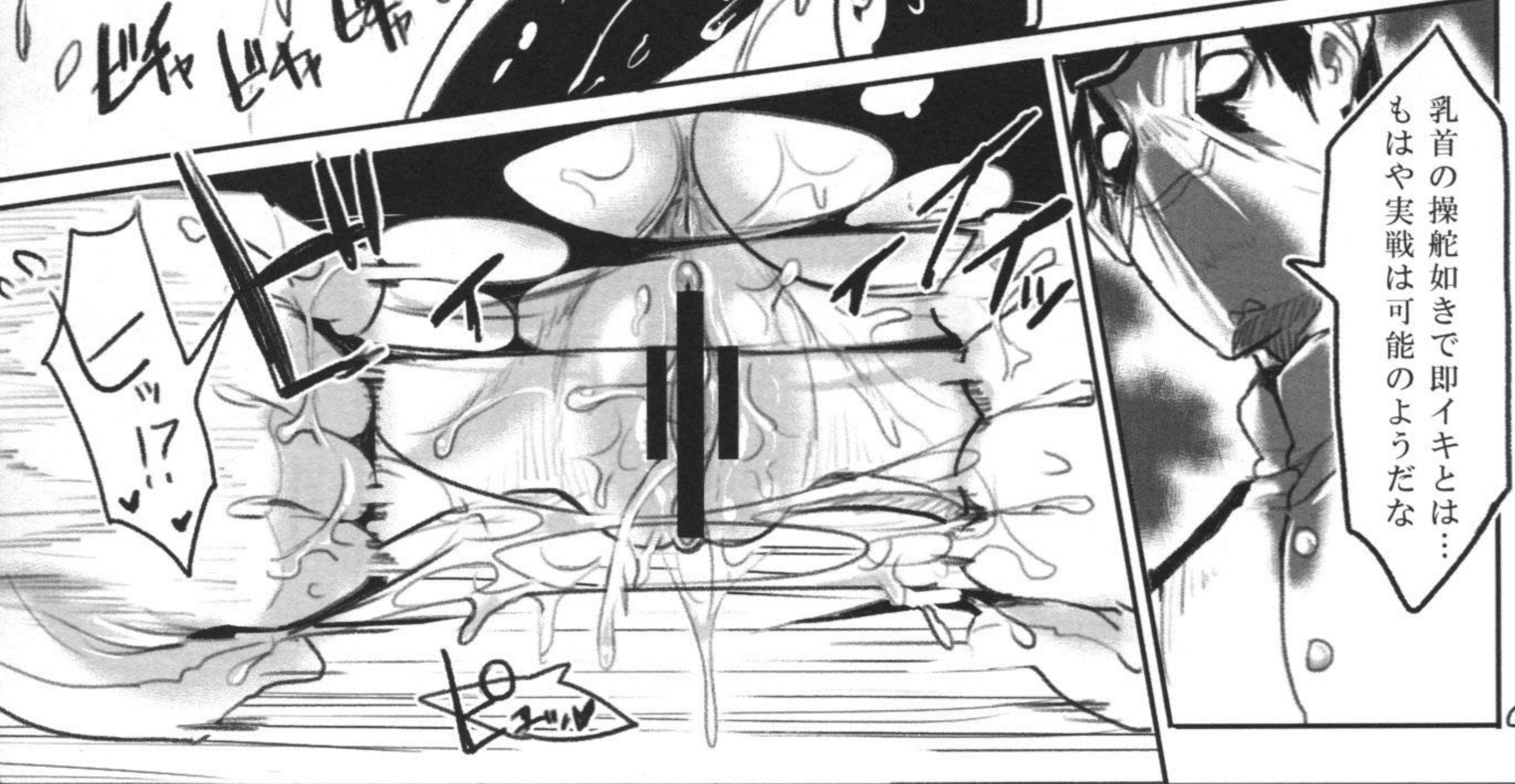
1時間後――

いく寸前の感度で
一時間か…並の艦もす
なら気絶してゐるなあ

頑張った
ご褒美だ

ヲ級ちゃんには――





それでは処女航海といこうか：目標捕捉ツ！

装・填ツ!!

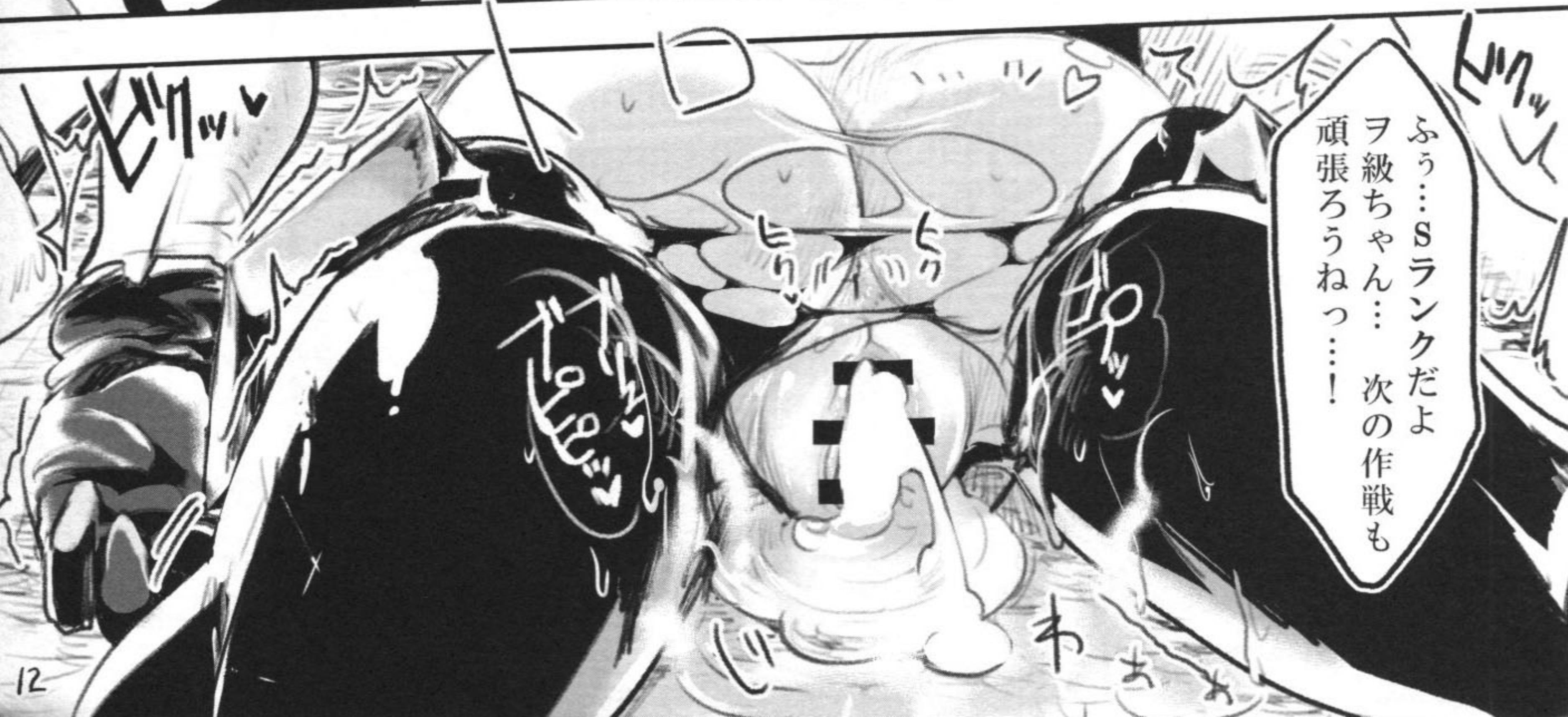
魚雷

くお…！ 膀ヒダが
変則的にウネウネと…

さ…流石深海仕様ツ…
膀胱がハンパない…ツ

子宮にタツブリ
提督ザーメンツ！

くつ…ふうつ…！ もう
出すよヲ級ちゃんつ！



1週間後



くじゅう
頼んだよ
あとは

大本營發表！

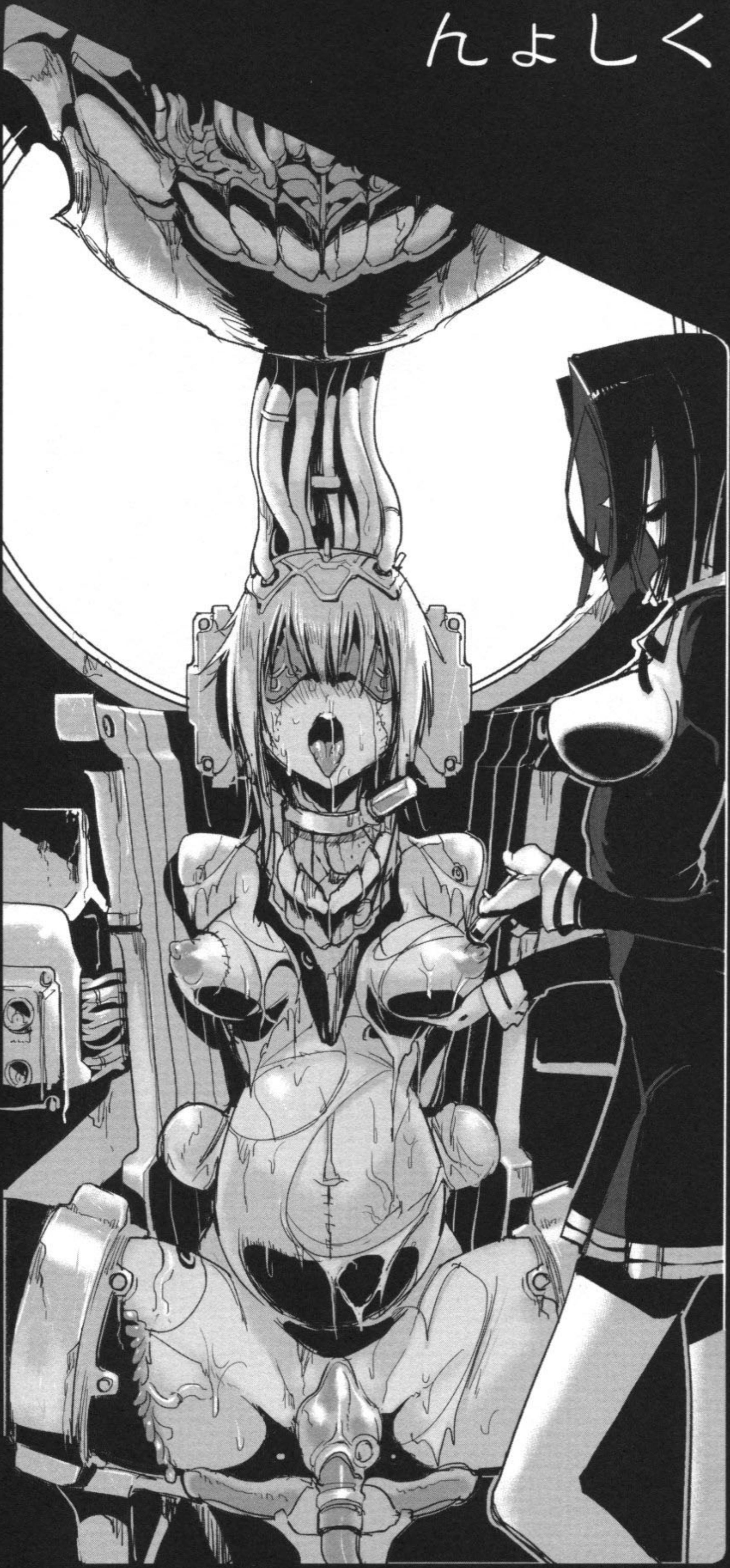
突如として襲来し、我々人類を
おびやかす深海棲艦。それに唯一
対抗しうる人型艦船「艦娘」の
躍進は破竹の勢いである！

「艦娘」
量産された義体を依代とし、
過去の艦船、その乗組員ら
その記憶とも呼ぶべき思念を
その身に宿した存^{よりまし}。

本日、北方海域に作戦中の我が
艦隊は敵有力艦隊に遭遇し、
敵空母2隻、軽巡洋艦5隻、
駆逐艦5隻を撃沈する大戦果
を収め！

多くの想いと希少な資材を一身に
背負つて投入される彼女達に、死はに
戦果は欺瞞に塗り潰され、華々に死はに
抹消された。建造記録そのものの多くがくい戦果
は、のちに建造記録そのもののがくい戦果

轟沈これしよん



内、敵空母一隻の歯獲に成功！
軍法に照らし合わせ、新兵器の
開発、深海棲艦の研究材料とし
て有効に活用する決定である！

水底に沈んだ彼女達の想いを掬い上げた
のは、歯獲した敵空母の脳髄より得られた
視聴覚記録映像であつた。そこに残された少
女の記憶と末路であつた：

在リシリノ記憶
暁型三番艦 雷

改修

遠征

まかせて!
たくさん稼いでくるわ!

敗北

またがんばれば
いいじゃない

「しれーかん…ごめ…帰…れな…」

深海棲艦の造船状況を捉えた、初めての映像である。

暁型は肉壁に拘束され、四肢は既に失われていた。

侵食体の下部には睾丸を思わせる器官が認められ、

何らかの液体を体内に注入することで、義体を

内側から造り替えているのだろう。

皮膚の内側には既に侵入を終えた触手が巢食い、

気持ちよさそうに泳いでいる。

「あ…赤ちゃんのお部屋も…他のところも…

化け物の巣になっちゃった…は…はは…

あううっ!?

《ピュップ! ピュルルウツ!》

乾いた笑いを潤すかのように、射精音が響く。

「ごめンネ…シレ…ゴメ…ン…」

次に切り替わった映像で、彼女は「部品」に成り果てていた。半透明の瑞々しい肉壁に埋められた

敵駆逐艦の真新しい艤装が開き、適切に加工された

「部品」が手際よく詰め込まれていく。

その映像は、艦娘出生の秘密と深海棲艦の浅からぬ因縁を、痛烈に示唆していた。



在リシ日ノ記
天龍型一番艦 天龍憶

割烹着
似合う系女子

「や、やめろ…食うな…食うなああっ！」

牙の生えた獰猛な触手が、四肢に群がっている。
天龍型の義体に施された何層ものコーティングは
ブチブチと肉質な音を立てて引き裂かれ、齧り付いた
顎の形をした赤黒い掘削痕がヒクヒクと痙攣している。

「グスッ…何でだよ…なんでだよおっ…」

義体を捕食されているにも関わらず、天竜型は痛覚を
感じていないように見受けられた。

どうやら麻酔に類する液体を注入されているらしい。

左眼孔と肛門に群がる触手が、一定の間隔で激しく脈打つ。

「ひやっ!? そっ…そこはやめろおおっ！」

下着を絡めとられ、女性器を模した補給孔があらわになる。

古来から艦船の魂は女性である為、依代である義体もまた
女性に似せる必要があった。特に女性を女性足らしめる
下半身は特に精巧に作りこまれており、しばしそれが
災いした。

一本に閉じていた少女の秘所を、触手が強引に拡げ、

顎になり、白濁の潤滑液を垂れ流す補給孔の前で、

触手がゆっくりと鎌首をもたげる。

「いいいっ!? い…やだ…やだやだあああっ！」

触手が殺到し、彼女が叫ぶのと同時に、映像が切り替わった。



次の映像では、着々と「部品」となりつつある
天龍型の最期が残されていた。

補食された義体の外装は修復されているものの、
その肌は以前の血色を失い、死人のように青白い。
半透明の肉壁からのびる触手は義体の体内と接続され、
両腕と頭部は取り返しのつかないほど癒着が進んでいる。
青白い体と肉壁が織り成す紫のグラデーションが、手の施し
ようがない彼女の惨状を残酷に物語っていた。

先に見た雷型の例と同様、腹部には無数の生物が、我が物顔で
蠢いている。さらにその下では、肉壁から伸びる男性器ほどの
触手が規則正しい抽挿を続けていた。その間に合わせる
ように、天龍型だったソレはノイズがかかった嬌声をあげる。
「アッ、アッ、あッ、アッ、アッ、アッ！」

彼女が見ているものは在りし日の記憶か、自分を守る為の
幸せな嘘なのかはわからない。しかし彼女にとっての「提督」
は、恋人の期待に応えるかのように速度を速めていく。
「テイトクフナカニ射精シテツオレをツテイトクの
オンナにシテえツ！」
（ブピュッ！ ピューッピュクッ！ ピュルルゥウッ！）

粘り気のある濃厚な射精音と同時に、無数に蠢いていた体内的
触手が一斉に子宮方面へ群がり、発射された粘液を咀嚼していく。
「フフ…飲んでルよオ…オレとテイトクの赤チャン…飲んでるウ…」

天龍型だったソレは、寄生された胎を慈しむ様な眼差しで
いつまでも見つめ続けるのだった。

その後彼女はどうなったかは、云うまでもないだろう。
彼女の身におきた記憶の断片が、点滅するように再生されていく。

彼女と肉壁とを繋ぐ管がピュクピュクと脈動し、その度に嗚咽に似た嬌声をあげる映像。
孔という孔から、見たこともない異形の蟲が這い出す映像。
あらぬ位置に配置される人型の部品。

「へへへ…コレタヨお…！アンナ弱エ艦装ジャ足リネエ…！
モット強クナッテ…褒メテモラウンダ…！」

護国のために挺身の覚悟で戦った戦士の魂は、水底で陵辱され、
報われることのない己が運命を一時は呪った。



しかし、全身が強靭な艦装と化した今、依然とは比べ物にならない力が満ちている。

まだやれる。純粹な兵器として生まれ変わった自分が
誇らしかった。

「提督…褒メテクレルヨナ…？」

サア…抜錨ダッ！」

在リシ日ノ記憶
天龍型二番艦 龍田

(リ)解体



「天龍ちゃんに…」

次に映し出されたのは天龍型二番艦・龍田。
燃費の良さと堅実な仕事ぶりから、生産艦数と現役稼動数が多い艦娘である。彼女は先程の天龍型一番艦と同じ戦闘で轟沈した個体らしい。

普段は全くといっていいほど感情を表に出さない彼女だが、姉妹艦を亡くし、これだけの触手に全身を食まれていては、絶望するより他になかつたのだろう。

皮膚を剥ぎ取られ、黒鉄色のフレームが露出し、入り込んだ触手に補給孔を穿り犯されても、まるで抵抗する気配がない。

「早く…終わらせて…天龍ちゃんの…所…に…」

暗転。次の場面では、敵軽巡へと改造される彼女の姿が記録されていた。

「アツレアアツレすごいわあ…！ 天龍ちゃんの膣の感触も私の膣もお…ぶりぶりしてとってもしゅてきいいい…！」
天龍を改造している触手の感覚を自ら同期させているらしい。
両脇には駆逐艦二隻が繋がれている事から、この能力は
軽巡ト級に改造されたことで得られたものだと察しが付く。龍田の補給孔に挿入された肉棒が、天竜を犯す
触手の動きに同期し、犯す快感と犯される快感を
自らの脳髄に流し込んでいく。



「ああっ天龍ちゃん♪ デるっ♪
一緒にっ♪
あーっ龍田いぐうううーっ♪」
《ビシュウウッ！ ブシッ！
ブシャアアアアアアアアーッ！》
「アアツレいぎっ!? きひいいいっ♪」
龍田の一部と化し、処理限界を超える
快感を強制的に流しこまれた駆逐艦が
耐え切れず失禁する。その快感もまた龍田
に同期される。
「あはああああ～♪ しあわせえ…♪
深海棲艦って…最っ高おだわあ～…♪」

「提督ツレ龍田ノ悪墜チまんこデ
轟沈サセテアゲマスううツレ」



映像には、本来あり得ないはずの、司令官と龍田一いや、
深海棲艦との情交が収められていた。襲われたのは、かつて
彼女達を指揮していた司令官。明らかな意趣返しであった。

「私ヲ無理矢理犯シタ時ト比べテドウ？今ノホウガ
ズーっとステキでショア？」

両手は深海棲艦の歯牙で拘束されている。迂闊な事を
すればすぐにでも噛み千切られるだろう。

通常ならとても興奮していられない
状況下でも、死ぬ前に子孫を残そう
とする雄の本能には抗えない。

例え相手が人外の存在だと
しても。

「ウフフ…提督ニハ感謝シテルン
デスヨお…？コンナ幸セ…アノ頃
ニハナカッタンダモノオツレ」

両腕を噛む力が徐々に
強くなっていく。

彼はもう、自分の最期を
予見しているのだろう。

半ば自暴自棄になって、今や
化け物と化した彼女を犯し始めた。

「アアツレイイソノ感ジレツレ
モット犯シテツレ最期マデツレ
死ニモノ狂イデ頑張リナサイツレ」

《ピュブゥツリブピュリュリュルーツリ》
「アアツレアハア～…タマンナあイ…
ウフフ…アタッテルトイイワネ…?
ソレジャア提督～」

「サ・ヨ・ウ・ナ・ラ」
《ゴキンッ！》



「も…やめてよおッ…！
おッ…んおおッ＼んおおおおつ＼」

映像に映っている彼女とは、面識があった。
島風型はこの鎮守府内で一隻しか建造に
成功していない。いわゆる「木口」と
呼ばれる艦娘達は、轟沈のリスクを回避する為、
慰問、秘書艦任務、宣伝など戦闘外の任務を与
えられる事が珍しくない。それだけに、島風轟沈の
報は鎮守府内でも悲劇的に報じられていた。

その彼女が—

「ひ、ひいっ！やめてえっ！
おッ…お腹入ってこないでええっ！」

——「解体」、されていた。
肉床から生えた五本の腕が、
各々の役割を手際良くこなし
ている。肉床を手のひらに例える
なら「中指」にあたるであろう触腕
が、彼女の白い下腹部から、赤黒い
握り拳程のユニットを摘出している。
「や…やだ…！ヤダヤダヤダアああっ！
戻してっ！お腹にそれ戻してよおお…！
んづうつ！？」

黙らせるかのように、「小指」が白濁の液体を
勢いよく注ぎ込む。股間を担当している色の
濃い触手も、「小指」に合わせるかのように
音を立てて液体を注ぎ込むと、「中指」が摘出
した肉袋が水風船の様に膨らんでいく。

(なに…これ…でてる…のに…おなか…ドコいった…の…?)
まるで、珍しい虫を弄ぶようなその光景に、映像を視聴する
観衆に筆舌に尽しがたい感情が沸き上がる。それは紛れもなく、
同属嫌悪だった。

「キャハハハハハハハハ！」速イ速アーハー！」

耳を疑った。先程まで苦痛に喘いでいた
彼女が次の瞬間、深海棲艦と化した姿で
悠々と泳いでいる。

生前の彼女を思えば、スピードの権化
と化した今の姿は、ある種の理想を
体現したものと言えるだろう。
その草原を駆ける兎のような躍動
は、純粹な力強さに溢れていた。



戦艦級の深海樓艦については一瞬映像に覗いたのみであった。それぞれ金剛型が夕級、長門型がル級の艦装である。

戦線が拡大し続ける中、ついに艦娘を使い捨てとする戦法もとられ始めた。艦娘も続々と増産が進められているが、深海樓艦は依然底が見えない。今回鹵獲した敵空母を検めて得た情報から新型艦娘の建造も急がれるだろう。

敵は今も尚、失った娘達の数だけ増え続けている。

発行: SHIS

編集: Zトン

印刷: サンライズ

連絡先: zeyas005@yahoo.co.jp

PIXIV ID: id=14168

twitter: Ztn5

本作の未成年の閲覧及びweb上

(同人誌アップロードサイト等)

への無断転載は厳禁です。

改
ニ

あとがき

Zトンです。今回の本も愛宕本同様、夏の再録加筆本となりました。普段から人外畠を耕しつつ、メカバレもまたこよなく愛していたが為、艦娘は「艦船の記憶」などというガ○アメモリめいた何かをOSとしたロボっ娘、または人造人間に違いないという脳内設定で日頃からペロペロしていた所存。

加えて、深海棲艦の物悲しい設定が悪魔ち好きの琴線にも触れてしまったので、内容も気がふれた感じになってしまいました。いつの間にか悪魔ちというより艦これ淫○蟲になってしまったが女の子達を沢山可哀想な目に合わせることができたので一片の悔いなし！公式アンソロにもお呼ばれしている身でこんな本を出していいのかとも思いましたが、ただひたすら平穡な日常を愛でる

メディア作品が氾濫する昨今、轟沈という明確な死が設定されている艦これワールドを殺伐とした目線で楽しみたいという数少ない変態提督の(というか当方の)為にもこういう奇書は一冊くらいあっても罰はあたら…いや当たりそうだなあ…

ということで当鎮守府では輪廻転生、即ち艦娘は墮ちて深海棲艦になるも、更にまた轟沈することで再度艦娘としてドロップする=生まれかわるという、幾分珍しいのある解釈を採用している次第。

とはいえた大切に育てた瑞鳳達が轟沈したら立ち直れそうもないで、ゲーム中の当艦隊はダメコン積んでても中破即撤退のホワイト鎮守府です。捨て艦ダメ絶対！とはいえた捨て艦ダメでデイリー解体はいいの問題とか複雑よなあ(艦装だけじゃなく艦娘も解体されてるよ派)ではまた次の本で！



⚠ R18G

鎮守府指定有害図書

本書ハ深海棲艦及ビ艦娘ノ性描写及び四肢欠損・身体改造等ノ残酷描写アリ。
未成年ノ閲覧、及ビ非・特殊性癖者以外ノ閲覧注意。WEB上ヘノ無断転載ヲ堅ク禁ズ。